



一雨ごとに寒さが加わって19日の朝は赤石岳に初冠雪です。庭の黄色に染まるもみぢは今朝から見頃を迎えました。昨日の冷たい雨降りの後、すっきりと晴れ渡った青い空によく映っています。山路で優しく咲いていた優雅菊に変わり龍腦菊がその長い首(茎)を秋風に遊ばせています。庭の花たちと黄や白やワインレッドの菊の花に入れ替り秋の深まりを教えてくれます。昨日は霜降。お寒くなりました。

「金木犀の香りがしてくると、食卓にまつ茸が上がる。今年もたがわす。そうなりましたが、十分という量ではありませんでした。いつも来て下さるお客様の他に若い方たちがこの高級な松茸を召し上がりに来られたというのに驚ろかされた秋でした。ここから少しばかり松茸を採るような気配いかに(とはじめたのが遅かったのだ)期待しているところ。我が山の秋は、とちしめじやさくらしめじ、おみたけ、いくらなど二人の息子たちが、(もちろん正介父も)小まめにふかけていては採って来てお料理しています。

貴重な食卓に自分たちの山の手に入っている(松茸はないのです)とあって二人の息子は喜びとしてふかけていきます。この二人夏の間は鮎釣りに熱中してあちらこちらの川にふかけていきました。今はお客様が終って食事をした後小湫川にふかけていき、あかき釣りに熱心です。新鮮な食材を料理する時の手ごたえもなんともたまらないので、そうやって結構なことではあります。それと真暗な夜中、ライトを浴びて銀色にキラキラ光り群がってヒッパ、ヒッパとばねる様子はワクワクするのだそうです。話を聞いていけばそのワクワク感が伝わってきます。次の日夜お客様のお食事すみ、食事をしたらふかけるといふ主人と息子たちについて現場へ。車を降りたところから川辺まで少し流る所をスルスル滑りながら岩に足をかけながら下ると15分あり、釣竿、ライトをセットしてしばらくするとわかきぎのヒッパヒッパ音を立てて集まってきます。とび魚のように空を舞うのも、満月に向う月と雲が多くて薄明りの中虫の音を聞きながら風に流れる水面に垂れる糸。オーキタ、きたると釣り上げると4,5cmのわかきぎが銀色にキラキラ光りながら右へ左へようやく手元に来て箱の中に納まります。2時間この日は12匹。寒中忍耐力の要ることです。子と母たちや主人はこんな楽しいらしい。明日のお客様に天ぷらにしてお出しお奉ると思えば充実したひとときを過ごせたというものです。明日を迎えられることでしょう。